

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースの関係で適切である	9	法令の基準に適した適切なスペースを確保しています。	もう少し広ければ運動療育内容の幅が広がるので助かりますとの意見もあり、基準以上のスペースではありますが、運動療育時は机の配置を工夫してスペースの確保を図りたいと思います。
	2	職員の配置数は適切である	9	基準を満たす人員配置をしており、療育に関わる職員は、全員有資格者です。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	玄関には段差がありますが、スロープを配置しており、移動には支障がない環境となっています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9	日常のミーティングやリフレクション会議等で、常勤・非常勤を問わず情報共有を行い、現状把握と改善点を討議しています。	
	5	保護者様向け評価表を活用するなどによりアンケート調査を実施して保護者様の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	毎年アンケートを配付し、ご意見やご意向を把握することにより、改善につなげています。今後も公式 Web サイトで公開しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や公式 Web サイト等で公開している	9	COMPASS 発達支援センター公式 Web サイトにて公開しております。	今後も公式 Web サイトで公開してまいります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	現時点では第三者評価は実施できておりません。	第三者による外部評価については今後の課題として検討してまいります。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	年間予定を立て、事業所内の職員研修は定期的に行っています。また、外部で受けた研修は全職員に周知、共有し資質の向上に努めています。今年度はコロナ対策を行った中で管理者中心に外部研修にも参加する機会がありました。	
	9	アセスメントを適切に行い、児童と保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	アセスメントから児童や保護者様のニーズを分析し、適切な計画を作成しています。	
	10	児童の適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	標準化されたアセスメントシートを使用し、状況の把握に努めています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	有資格者がそれぞれの立場から意見を出し合い、児童の発達年齢や、特性を加味しながら、全職員で話し合い、立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	季節ごとのプログラムや、児童の興味、関心を取り入れて活動が固定化しないよう工夫しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	平日は学習支援を中心とし、長期休暇は集団活動や季節のイベントを取り入れるなど、児童の状況や特性に応じて個別活動や集団活動を組み合わせています。	
	14	児童の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	9	児童の特性や状況、活動時間に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	支援開始前には、当日の予定や支援内容を話し合う時間を設け、児童の情報共有や役割分担の確認をしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	勤務がシフト制のため支援終了後の全職員での打ち合わせは行っていませんが連絡ノートを活用し共通理解を図っています。	
関係機関や保護者様との連携	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	支援内容については正確に記録することを徹底しており、次の支援担当者への申し送りや職員間での共有を図りながら、支援の振り返り・改善に努めています。	
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しを判断している	9	半年ごとに必ずモニタリングを行い、児童の状況や保護者様のニーズを把握し計画を作成しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	9	支援はガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、児童の特性や年齢、季節も考慮した構成となるように心がけています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその児童の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	児童発達支援管理責任者だけでなくひとりの意見に偏らないよう、対象児童の状況を理解し説明ができる職員が一緒に参加できるよう努めています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、児童の下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9	児童発達支援管理責任者ひとりの意見に偏らないよう、児童の状況を理解し説明ができる職員が一緒に参加できるよう努めています。	
	22	医療的ケアが必要な児童を受け入れる場合は、児童の主治医等と連絡体制を整えている	9	現在医療的ケアが必要な児童は在籍しておりません。	事業所は重症心身障害以外の児童が対象となっていることもあり、今後受け入れ希望があった場合は、慎重に検討し、受け入れ体制・事業所のあり方について模索してまいります。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	必要に応じて関係機関と情報共有を図り、相互理解に努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	相談支援専門員を通じて、事業所での支援内容や児童の状況について、情報提供できるように準備しています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	児童発達支援センターや専門機関と連携し、助言等を受けています。	
保護者様への説明責任等	26	放課後児童クラブや児童館との交流など外部との活動する機会がある	9	個人情報の関係もあり、活動する機会が実現できていませんが、保護者様のご意向を踏まえつつ、必要に応じて今後検討します。	児童の現状や保護者様のご意見等を踏まえて、交流会等の機会を検討します。
	27	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	9	職員の意向を踏まえながら、研修・講演等への参加の機会を持てるよう、周知しています。	
	28	日頃から児童の状況を保護者様と伝え合い、児童の発達状況や課題について共通理解を持っている	9	児童の様子や療育内容は、日々の連絡帳に記載しています。また送迎時にはできるだけその日の児童の様子をお伝えするよう心がけ保護者様との情報交換をおこない、児童についての共通理解を深めています。	
	29	保護者様の対応力の向上を図る観点から、保護者様に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	9	家庭連携を通じて保護者様からのご相談に対して助言等の支援を行っています。	
	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	契約時に運営規程、利用者負担等について丁寧な説明に努めています。また、質問やご不明な点がないかなどを確認しながら進めています。	
	31	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	電話による受付や連絡帳・家庭連携等で児童の状況や課題を十分に把握して、様々な視点での助言と迅速な対応ができるように心がけています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催したりするなどにより、保護者様同士の連携を支援している	9	個人情報の関係もあり、保護者様の集まる機会が実現できていませんが、ご意向を踏まえつつ、必要に応じて今後検討してまいります。	児童の現状や保護者様のご意見等を踏まえて、交流会等の機会を検討してまいります。
	33	児童や保護者様からの苦情について、対応の体制を整備するなどにより、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	苦情窓口を決め、苦情をいただいた場合には全職員に周知し、ご意向の内容と対応について共通理解を図り、迅速かつ丁寧な対応を心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を児童や保護者様に対して発信している	9	季刊のコンパス便りや毎月の子どもカレンダーを発行しているほか、LINE 公式アカウント等でブログの更新や情報をお伝えし、公式 Web サイトで事業所の様子を公開しています。	
非常時等の対応	35	個人情報の取扱いに十分注意している	9	契約時に氏名や写真など個人情報の取扱いについて書面で確認し、ブログ等への掲載可否についても保護者様の同意をいただくようにしています。個人情報に関する書類はファイリングし鍵付き書庫にて厳重に管理しています。	
	36	障がいのある児童や保護者様との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	児童には状況や特性に合わせた伝達方法を用いています。保護者様には連絡帳を始め、口頭でも伝達をしており、専門用語は避け、わかりやすい言葉を使うよう心がけています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	個人情報の関係もあり、保護者様の集まる機会が実現できていませんが、ご意向を踏まえつつ、必要に応じて今後検討してまいります。	今後、保護者様のご意見も伺いながら検討します。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者様に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	保護者様にもご覧いただけるよう、マニュアルは事業所内入口に掲示し、事業所内研修で職員共に共通理解を図っています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	定期的に地震・火災・風水害を想定した避難訓練や、不審者対応訓練を年間計画に基づき実施しています。警察や消防等から直接訓練の指導を受けられる機会を設けるよう検討しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	年間計画に基づき職員研修を実施し、また行政主催の外部研修にも参加するなどとして、虐待防止への理解に努めています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、児童や保護者様に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	利用契約書に身体拘束禁止の条項を記載しており、保護者様に説明してあります。やむを得ず身体拘束を行う場合は、あらかじめ文書により保護者様の同意を得るよう定めています。また個別支援計画にも文言を記載し、身体拘束が必要な場合には書面にて同意を得るようにしています。	
	42	食物アレルギーのある児童について、医師の指示書に基づく対応がされている	9	現在、対象となる児童がいませんが、今後、アレルギーのある児童を受け入れる際には、医師と連携し指示書に基づく正しい対応を熟知して、安全な支援に取り組んでまいります。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	事象の発生ごとに報告書を作成し、職員で話し合いの機会を持ち、ファイルにて保管しています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。